

(5)発達全体の遅れ	3	0	1	0	4	2	0	2	0	0	12
内、男	3	0	1	0	3	1	0	2	0	0	10
内、女	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
内、医療機関受診	0	0	1	0	4	2	0	2	0	0	9
内、男	0	0	1	0	3	1	0	2	0	0	7
内、女	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
(6)その他の発達の問題	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
内、男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内、女	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
内、医療機関受診	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
内、男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内、女	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
対象者の合計	7	12	34	0	13	26	3	4	1	13	113
内、男	7	7	23	0	10	16	2	4	1	12	82
内、女	0	5	11	0	3	10	1	0	0	1	31
対象者のうち病院受診者の合計	4	7	7	0	7	9	2	2	1	12	51
内、男	4	3	6	0	4	7	2	2	1	12	41
内、女	0	4	1	0	3	2	0	0	0	0	10
4. 不登校の人数											
(1)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(5)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
(6)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3

5. 医療機関を受診しない理由												
受診に抵抗がある								1				1
家族の理解が得られない		3					1					4
民間療育機関など他に相談の場がある		2										2
必要性を感じない			27					1				28
経済的理由												0
宗教的理由												0
なんとなく												0
予約が取れない												0
診察してもらえない医療機関がなかなかない											1	1
合計	0	5	27	0	0	0	1	2	0	1		36

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（身体・知的等障害分野））

発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価

分担研究報告書

岐阜県瑞浪市の

発達障害児の支援体制の特徴に関する研究

分担研究者 関 正樹（大湫病院、土岐市立総合病院 精神科）

研究協力者 伊藤 友子（大湫病院）

栗林 英彦（県立多治見病院 精神科）

荒川 武（県立多治見病院 小児科）

元吉 史昭（土岐市立総合病院 小児科）

中野 正大（土岐市立総合病院 小児科）

吉川 徹（愛知県心身障害者コロニー中央病院 児童精神科）

研究要旨：発達障害の早期発見と早期支援の重要性が強く叫ばれるようになり、各地域で具体的な取り組みが推進されつつあるが、その進捗には地域格差も大きい。特性の異なる自治体における、発達障害の支援ニーズの把握とともに、地域の特性に応じた発達障害支援システムの現状を調査し、具体的な地域支援のあり方についてモデルを示す事を目的とした調査研究の一環として、前年度に引き続き、岐阜県瑞浪市において、教育機関、医療機関における有病率調査を行った。瑞浪市においては、広汎性発達障害の小学1年、2年児童における医療機関把握率はそれぞれ、0.6%、1.0%であり、小学6年児童、中学1年では2.51%、2.63%であった。前年の調査でも、小学1年児童における医療機関把握率は低く、小学6年児童においては高い傾向にあった。瑞浪市では発達障害に対する早期支援の体制はある程度整っているものの、医療機関の受診は小学校入学以降なんらかの形で事例化してからの受診が多い事が示唆された。

A. 研究目的

発達障害の早期発見と早期支援の開始の重要性が強く叫ばれるようになり、各地域において具体的な取り組みが推進されつつあるが、その進捗には地域格差も大きい。また、大都市と小規模都市では、おのずとできることも異なってくる。従って、特性の異なる

自治体における発達障害の支援ニーズを把握し、発達障害の支援システムの現状について調査を行い、地域の特性に応じた発達障害の支援システムのモデルを提示することには大きな意義がある。

その一環として、前年度に引き続き、発達障害の支援ニーズに関する調査を疫学的手法を用いて行うことが本調査研究の目的で

ある

B. 研究方法

1. 発達障害の支援ニーズに関する調査

本年度も前年度に引き続き、教育機関（各学校）が発達障害について把握している、もしくは疑いを持っている子どもたちがどの程度存在するかを調査するために、教育機関（市内全小中学校、市内在住の対象の子どもが通う特別支援学校）にアンケート調査を行った（回収率は100%）

さらに、当地域の発達障害診療を行っている医療機関である、大湫病院、土岐市立総合病院、県立多治見病院、愛知県心身障害者コロニー中央病院において、前年度と同様の小学1年生及び小学6年生の有病率を発達障害全体及び主たる発達障害の種別を調査するため、診療録等より診断名、診断を受けた年齢、IQ、重複障害の有無について調査を行った。また昨年度調査を行った居住コホートの追跡調査を行う目的で、小学2年生、中学1年生においても同様の調査を行った。

（倫理面への配慮）

教育機関におけるアンケート調査においては、個人を特定し得ることのないように数的情報のみを取り扱った。

医療機関における診療録調査においては、一般診療行為から得られる臨床情報のみを診療録等を介して収集、利用することが目的であり、倫理的な問題は生じない。各医療機関で集めた個票は連結可能な状態で匿名化した後に集計を行った。

また、インフォームド・コンセントは取らないが、研究の意義・目的・方法、問合せ先等を記載したポスターを外来に掲示し、情

報の公開を行った。

さらに、本研究を行うにあたって、各医療機関における倫理委員会の承認を得た。

C. 研究結果

1. 発達障害の有病率調査

表1

瑞浪市 小学1年 N=301	教育機関 (内は教育機関における診断把握率)	医療機関
発達障害全体	6.64	2.66
広汎性発達障害	1.66(1.3)	0.66
多動性障害	1.66(0)	0.66
コミュニケーション障害	1.66(0)	1.00
精神遅滞	1.66(0)	0.33
その他	0(0)	0

表1は瑞浪市における小学1年児童の有病率調査の結果をまとめたものである。瑞浪市において、市内各小学校、対象となる特別支援学校におけるアンケート調査の結果（回収率100%）、教育機関において広汎性発達障害を疑っている、もしくは、診断を把握している児童の居住コホートにおける割合は1.66%であった。多動性障害も1.66%、精神遅滞も1.66%であった。医療機関への受診を把握している割合は総じて低く、受診しない理由としては、「必要性を感じない」「家族の理解が得られない」が多かった。

医療機関における診療録調査では、広汎性発達障害は0.66%、多動性障害は0.66%であった。発達障害全体としては、6.64%が教育機関で把握されており、2.66%が就学前に医療機関で何らかの発達障害の診断を受けていた。

表 2

瑞浪市 小学2年 N=306	教育機関 ()内は教育機 関における診断 把握率	医療機関
発達障害全体	12.4	2.94
広汎性発達障害	2.94(1.0)	1.00
多動性障害	1.96(0.7)	0.33
コミュニケーション 障害	0.33(0.33)	0.33
学習障害	3.92(0.33)	0
精神遅滞	2.61(1.00)	1.00
その他	0.65 (1.3)	0.3

表 2 は瑞浪市の小学 2 年児童における発達障害の有病率調査の結果をまとめたものである。教育機関において、広汎性発達障害を疑っている、もしくは診断を把握している児童は 2.94%、多動性障害は 1.96%、学習障害は 3.92%であった。医療機関受診をしない理由は「必要性を感じない」「現在様子を見ている」が多かった。医療機関における診療録調査では、小学 2 年児童の 1.00%が医療機関で広汎性発達障害と診断されており、0.33%が多動性障害と診断されていた。発達障害全体としては 12.4%が教育機関で把握されており、2.94%が医療機関で診断を受けていた。

表 3 は瑞浪市の小学 6 年児童における発達障害の有病率調査の結果をまとめたものである。教育機関において、広汎性発達障害を疑っている、もしくは診断を把握している児童は 2.54%、多動性障害は 1.12%、学習障害は 0.83%であった。医療機関を受診しない理由としては「必要性を感じない」が多かった。医療機関における診療録調査では、小学 6 年児童の 2.51%が医療機関で広汎性発

達障害と診断されており、0.84%が多動性障害と診断されていた。発達障害全体としては 6.98%が教育機関で把握されており、4.47%が医療機関で診断を受けていた。

表 3

瑞浪市 小学6年 N=358	教育機関 ()内は教育機 関における診断 把握率	医療機関
発達障害全体	6.98	4.47
広汎性発達障害	2.51(2.51)	2.51
多動性障害	1.12(0.84)	0.84
コミュニケーション 障害	0(0)	0
学習障害	0.83(0))	0
精神遅滞	1.40(0.28)	0.56
その他	1.12(0.28)	0.56

表 4 は瑞浪市の中学 1 年生における発達障害の有病率調査の結果をまとめたものである。教育機関において、広汎性発達障害を疑っている、もしくは診断を把握している児童は 2.34%、多動性障害は 0.88%、学習障害は 0.00%であった。医療機関を受診しない理由は「必要性を感じない」「家族の理解が得られない」が多かった。医療機関における診療録調査では、中学 1 年生徒の 2.63%が医療機関で広汎性発達障害と診断されており、1.46%が多動性障害と診断されていた。発達障害全体としては、7.02%が教育機関で把握されており、4.68%が医療機関で診断を受けていた。

表 4

瑞浪市 中学1年 N=342	教育機関 ()内は教育機関 における診断把 握率	医療機関
発達障害全体	7.02	4.68
広汎性発達障害	2.34(1.46)	2.63
多動性障害	0.88(0.29)	1.46
コミュニケーション障害	0.58(0.29)	0
学習障害	0(0)	0
精神遅滞	2.92(1.16)	0.58
その他	0.29(0.29)	0

D. 考察

1. 瑞浪市における広汎性発達障害の有病率について

本年度の岐阜県瑞浪市においては、小学1年児童において、教育機関における発達障害全体の把握率は6.64%であるのに対して、医療機関における把握率は2.66%に留まっている。小学2年児童においても、同様に教育機関においては把握されているが、医療機関受診には至っていない傾向は続いており、教育機関把握率 12.4%に対して、医療機関受診率は2.94%となっている。

小学校6年児童においては、教育機関把握率 6.98%に対して、医療機関受診率は4.47%となっており、その差は明らかに小さくなっている。この傾向は中学1年においても同様である。

多くの小規模な市町村では大都市型のように医療機能をもつ療育施設を単独で設置する事は困難である。そのため、1歳半健診や3歳児健診などでチェックを受けた子ども多くは、相談・調整を経た後、小規模な療育施設や園においての生活支援が開始さ

れることが多い。

瑞浪市においても同様の支援システムがとられており¹⁾、園での支援や巡回支援、小規模な療育施設での療育が診断を待たずに行うことができる。しかし、地域の特徴として、祖父母同居世帯も多く、療育や医療機関の受診につながることは抵抗感も大きい。就学移行支援のシステムとして、引き継ぎ会などもなされており、そのため教育機関は医療機関の診断を待たずとも、支援を開始する事ができる。その結果、小学校低学年までは教育機関把握率は高いが、医療機関受診率は低い傾向につながっているものと推測される。

しかし、特別支援の枠組みだけではうまくいかず、小学校での事例化を経て、医療機関受診につながっている者も多いため、小学校6年時、中学1年時には、教育機関把握率と医療機関把握率の差が縮小しているものと考えられる。

診断の内訳に目を向けてみると、広汎性発達障害の診断例は小学校6年、中学校1年時点でそれぞれ2.5%を超えていた。これらは最近の広汎性発達障害の有病率のデータである、韓国における調査データ²⁾とほぼ同様の数値であった。しかし、チェックを受けている児童、学生の全数が医療機関受診につながっているわけではないため、真の有病率はこの数値よりも高い事が想定される。

E. 結論

岐阜県瑞浪市における発達障害の支援ニーズを検討するために、教育機関における発達障害の把握に関するアンケート調査を行うとともに、医療機関における診療録調

査を行った。

瑞浪市においては、早期発見は比較的達成されており、小学1年生の時点で教育機関が支援ニーズを把握しているものは、比較的多く認められが、この時点での医療機関受診率は低い。この背景には、小規模市特有の発達障害支援システムが影響を及ぼしている事が示唆された。

また、早期に支援は開始されるものの、何らかの意味でゆきづまりが生じ、小学校入学以降医療機関受診につながっている者も多い地域であることも示唆された。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

H. 参考文献

- 1) 関 正樹 :岐阜県瑞浪市の地域特性と発達障害児の支援体制の特徴に関する研究 ; 厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合事業 発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価 平成25年度 総括・分担研究報告所 pp298-329
- 2) Kim YS et al:Prevalence of autism spectrum disorder in a tortal population sample. Am J Psychiatry 168;904-912,2011

(瑞浪市 小1) 平成 26 年 4 月 1 日時点での居住コホートに含まれる有病者数 (受診した子どものみ)

診断された 年齢	① PDD (F84)															計
	IQ69 以下			IQ70 以上			知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる			知的障害の有無は不明			
	重複なし	F90 あり	他の重複 あり	重複なし	F90 あり	他の重複 あり	重複なし	F90 あり	他の重複 あり	重複なし	F90 あり	他の重複 あり	重複なし	F90 あり	他の重複 あり	
1 歳代以下																
2 歳代																
3 歳代																
4 歳代						1:0										1:0
5~6 歳代				1:0												1:0
不明																
合計				1		1										2
(男:女)	(:)	(:)	(:)	(1: 0)	(:)	(1: 0)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(2: 0)

診断された 年齢	② 多動性障害 (F90 ; ①を除外)															計
	IQ69 以下			IQ70 以上			知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる			知的障害の有無は不明			
	重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80 あり	他の重複 あり	
1 歳代以下																
2 歳代																
3 歳代																
4 歳代																
5~6 歳代				1:0												1:0
不明				1:0 (7 歳)												1:0
合計				2												2
(男:女)	(:)	(:)	(:)	(2:0)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(2:0)

診断された年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80 ; ①②を除外)										
	IQ69 以下		IQ70 以上		知的障害があると思われる		知的障害がないと思われる		知的障害の有無は不明		計
	重複なし	他の重複あり	重複なし	他の重複あり	重複なし	他の重複あり	重複なし	他の重複あり	重複なし	他の重複あり	
1 歳代以下											
2 歳代											
3 歳代			0:1								0:1
4 歳代											
5~6 歳代			0:1						1:0		1:1
不明											
合計 (男女)	(:)	(:)	2 (0:2)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	1 (1:0)	(:)	3 (1:2)

診断された年齢	④ 精神遅滞 (F70~F79 ; ①②③を除外)			その他	
	重複なし	重複あり	計	内訳 (診断と人数)	計
1 歳代以下					
2 歳代				神経症 1:0	1:0
3 歳代	0:1		0:1		
4 歳代					
5~6 歳代				ホ-ダ-IQ 0:1 吃音 0:1	0:2
不明					
合計 (男女)	1 (0:1)	(:)	1 (0:1)		3 (1:2)

(4) 平成 26 年 4 月 1 日時点での居住コホートに含まれる有病者数 (未受診例も含む)

- ① PDD とと思われる子ども [2]人 (男[2]人、女[0]人)
- ② ①以外で多動性障害と思われる子ども [2]人 (男[2]人、女[0]人)
- ③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども [3]人 (男[1]人、女[2]人)
- ④ ①②③以外で精神遅滞と思われる子ども [1]人 (男[0]人、女[1]人)
- ⑤ その他の発達障害と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)

(瑞浪市 小2) 平成26年4月2日現在、地域に居住する小学2年生の子どもの数(居住コホート)

(1) 平成26年4月2日時点での居住コホートに含まれる有病者数(受診した子どものみ)

診断された年齢	① PDD (F84)																				計	
	IQ69以下			IQ70以上				知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる				知的障害有無は不明							
	重複なし	F90あり	他の重複あり	重複なし	F90あり		他の重複あり		重複なし	F90あり	他の重複あり	重複なし	F90あり		他の重複あり		重複なし	F90あり		他の重複あり		
					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり		重複なし	F81あり	重複なし		F81あり
1歳代以下																						
2歳代																						
3歳代																						
4歳代																						
5~6歳代	2:0			1:0																		
1年生																						
2~3年生																						
4~5年生																						
不明																						
合計(男女)	2 (20)	(:)	(:)	1 (10)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	3 (3:0)

診断され た年齢	多動性障害（F90：①を除外）																				計	
	IQ69以下			IQ70以上				知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる				知的障害有無は不明							
	重複なし	F80 あり	他の重複あ り	重複なし	F80あり		他の重複あり		重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80あり		他の重複あり		重複なし	F80あり		他の重複あり		
					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり		重複なし	F81あり	重複なし		F81あり
1歳代 以下																						
2歳代																						
3歳代																						
4歳代																						
5～6 歳代																	1:0					
1年生																						
2～3年 生																						
4～5年 生																						
不明																						
合計 (男女)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	1 (10)	(:)	(:)	(:)	(:)	1 (10)

診断された 年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80; ①②を除外)													計
	IQ69 以下		IQ70 以上			知的障害があると思われる		知的障害がないと思われる			知的障害の有無は不明			
	重複なし	他の重複 あり	重複なし	F81 あり	他の重複 あり	重複なし	他の重複 あり	重複なし	F81 あり	他の重複 あり	重複なし	F81 あり	他の重複 あり	
1 歳代以下														
2 歳代														
3 歳代														
4 歳代														
5~6 歳代														
1 年生											1:0			1:0
2~3 年生														
4~5 年生														
不明														
合計											1			1
(男女)	(:))	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(1:0)	(:)	(:)	(1:0)

診断された年齢	④ 学力の特異的発達障害 (F81；①②③を除外)			⑤ 精神遅滞 (F70～F79；①②③④を除外)			その他	
	重複なし	重複あり	計	重複なし	重複あり	計	内訳（診断と人数）	計
1歳以下	 	 	 	1：0		1：0		
2歳代	 	 	 	1：0		1：0		
3歳代	 	 	 		1：0	1：0		
4歳代	 	 	 					
5～6歳代	 	 	 					
1年生							吃音 1：0	1：0
2-3年生								
4-5年生								
不明								
合計 (男:女)	(:)	(:)	(:)	2 (2:0)	1 (1:0)	3 (3:0)		1 (1:0)

(2) 平成26年4月2日時点での居住コホートに含まれる有病者数（未受診例も含む）

- ① PDDと思われる子ども [3]人 (男[3]人、女[0]人)
- ② ①以外で多動性障害と思われる子ども [1]人 (男[1]人、女[0]人)
- ③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども [1]人 (男[1]人、女[0]人)
- ④ ①②③以外で学力の特異的発達障害と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)
- ⑤ ①②③④以外で精神遅滞と思われる子ども [3]人 (男[3]人、女[0]人)
- ⑥ その他の発達障害と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)

(瑞浪市 小6) 平成26年4月2日現在、地域に居住する小学6年生の子どもの数(居住コホート)

(1) 平成26年4月2日時点での居住コホートに含まれる有病者数(受診した子どものみ)

診断された年齢	① PDD (F84)																				計		
	IQ69以下			IQ70以上				知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる				知的障害有無は不明								
	重複なし	F90あり	他の重複あり	重複なし	F90あり		他の重複あり		重複なし	F90あり	他の重複あり	重複なし	F90あり		他の重複あり		重複なし	F90あり		他の重複あり			
					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり		重複なし		F81あり		重複なし	F81あり
1歳代以下																							
2歳代	0:2																					0:2	
3歳代	0:1			1:0																		1:1	
4歳代																							
5~6歳代	1:0																1:0					2:0	
1年生	1:0																					1:0	
2~3年生				1:0																		1:0	
4~5年生					1:0																	1:0	
不明																							
合計(男女)	5 (2:3)	(:)	(:)	2 (2:0)	1 (1:0)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	1 (1:0)	(:)	(:)	(:)	9 (6:3)	

診断され た年齢	多動性障害 (F90:①を除外)																				計	
	IQ69 以下			IQ70 以上				知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる				知的障害有無は不明							
	重複なし	F80 あり	他の重複あ り	重複なし	F80 あり		他の重複あり		重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80 あり		他の重複あり		重複なし	F80 あり		他の重複あり		
					重複なし	F81 あり	重複なし	F81 あり					重複なし	F81 あり	重複なし	F81 あり		重複なし	F81 あり	重複なし		F81 あり
1 歳代 以下																						1:0 1:0 0:1
2 歳代																						
3 歳代																						
4 歳代																						
5~6 歳代				1:0																		
1 年生																						
2~3 年 生																	1:0					
4~5 年 生				0:1																		
不明																						
合計 (男女)	(:)	(:)	(:)	2 (1:1)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	1 (10)	(:)	(:)	(:)	(:)	3 (2:1)

診断された 年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80 ; ①②を除外)													計
	IQ69 以下		IQ70 以上			知的障害があると思われる		知的障害がないと思われる			知的障害の有無は不明			
	重複なし	他の重複あり	重複なし	F81あり	他の重複あり	重複なし	他の重複あり	重複なし	F81あり	他の重複あり	重複なし	F81あり	他の重複あり	
1 歳代以下														
2 歳代														
3 歳代														
4 歳代														
5～6 歳代														
1 年生														
2～3 年生														
4～5 年生														
不明														
合計 (男:女)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)

診断された年齢	④ 学力の特異的発達障害 (F81；①②③を除外)			⑤ 精神遅滞 (F70～F79；①②③④を除外)			その他	
	重複なし	重複あり	計	重複なし	重複あり	計	内訳（診断と人数）	計
1歳代以下								
2歳代								
3歳代				1：0		1：0		
4歳代								
5～6歳代							ポ-ダ-IQ 1：0	1：0
1年生								
2-3年生							かん黙 1：0	1：0
4-5年生					1：0	1：0		
不明							吃音 1：0	1：0
合計 (男:女)	(：)	(：)	(：)	1 (1:0)	1 (1:0)	2 (2:0)		3 (3:0)

(2) 平成26年4月2日時点での居住コホ-トに含まれる有病者数（未受診例も含む）

- ① PDDと思われる子ども [9]人（男[6]人、女[3]人）
- ② ①以外で多動性障害と思われる子ども [3]人（男[2]人、女[1]人）
- ③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども []人（男[]人、女[]人）
- ④ ①②③以外で学力の特異的発達障害と思われる子ども []人（男[]人、女[]人）
- ⑤ ①②③④以外で精神遅滞と思われる子ども [2]人（男[1]人、女[1]人）
- ⑥ その他の発達障害と思われる子ども []人（男[]人、女[]人）

(瑞浪市 中1) 平成26年4月2日現在、地域に居住する中学1年生の子どもの数(居住コホート)

(1) 平成26年4月2日時点での居住コホートに含まれる有病者数(受診した子どものみ)

診断され た年齢	① PDD (F84)																				計	
	IQ69以下			IQ70以上				知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる				知的障害有無は不明							
	重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90あり		他の重複あり		重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90あり		他の重複あり		重複なし	F90あり		他の重複あり		
					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり		重複なし	F81あり	重複なし		F81あり
1歳代 以下																						
2歳代	1:0																					1:0
3歳代																						
4歳代	2:1																					2:1
5~6 歳代				1:0																		1:0
1年生				1:0																		1:0
2~3年 生																						
4~5年 生				0:1																		0:1
不明				0:1 (12歳)													1:0 (12歳)					1:1
合計 (男女)	4 (3:1)	(:)	(:)	4 (2:2)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	1 (1:0)	(:)	(:)	(:)	(:)	9 (6: 3)

診断された 年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80; ①②を除外)													計
	IQ69 以下		IQ70 以上			知的障害があると思われる		知的障害がないと思われる			知的障害の有無は不明			
	重複なし	他の重複あり	重複なし	F81あり	他の重複あり	重複なし	他の重複あり	重複なし	F81あり	他の重複あり	重複なし	F81あり	他の重複あり	
1 歳代以下														
2 歳代														
3 歳代														
4 歳代														
5～6 歳代														
1 年生														
2～3 年生														
4～5 年生														
不明														
合計 (男:女)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)